



創部30周年を祝す

関西大学

学長 中 義 勝

東京オリンピック大会でのわが国レスリング選手の活躍ぶりは、実に刮目すべきものがあった。グレコ・ローマンで、見事、金メダルを獲得した本学出身の市口選手は、大会後、ユニフォーム姿で母校を訪問され、私も法学部長室で同選手にお会いし、金メダルをみせてもらった。そのとき、いろいろと苦勞話をうかがったが、レスリング協会の八田会長の「眠れ」という号令一つで、バスのなかでも市電のなかでも、即座に全員眠ってしまうようになったという話には感心した。その後、私もこれにならない、何時、どこでも眠れるよう工夫している。眠ることも練習のうちであり、精神修養でもあるということだ。

わがレスリング部も、生活すべてこれ練習をモットーとして精進し、その結果、別掲の如き輝かしい戦績を収めることができたものと思う。

レスリング部が正式に発足したのは戦後のことだが、その濫觴は昭和10年にまでさかのぼる。この間、先輩諸氏のご努力には並々ならぬものがあり、それが今日の大をなしたもとになっている。草創の苦勞あってこそその見事な開花であったとしみじみと実感される。

今年、創立30周年に当り、往時を回顧して深く敬意を捧げるときに、今後ますますの発展を祈念してやまない。